

入選

祖母との関わりで学んだことを生かして

山口県 大和中学校
1年 池内駿汰

僕は休日、大型スーパーに母親と買い物に出掛け、買い物を済ませ店を出ようとしたとき、自動ドアのところで高齢のおばあさんに出会いました。おばあさんは、僕の祖母より年上の感じの方で、足が悪そうに見えました。買い物カートから、大きな袋2袋とトイレットペーパーを降ろそうとしていましたが、降ろすことができないように見えました。

「車まで運びましょうか。」

と、僕は自然と声をかけていました。そのような行動が初めてだったので、自分でも少し驚きました。おばあさんは笑顔で、

「ありがとう。ありがとう。力持ちが来てくれた。運んでくれるの？」

と言い、お礼を何度も言いました。カートのまま車まで行き、いっしょに荷物を車に乗せ、僕はカートを店に戻しました。おばあさんは、また何度もお礼を言い、足が悪いから買い物が大変でとても助かったと、いうことを言ってくれました。

そして、すごくうれしそうでした。僕にとっては、全然負担にならないこのことが、高齢者にとっては、すごく負担になるのだな、とこのときに思いました。また、お礼の言葉をたくさん言われ、とてもうれしい気持ちになりました。

僕は普段そういう行動をすることが苦手で、あまりしたことがなく、見て見ぬふりをしてしまうところがあります。なぜ、このような行動が自然とできたのでしょうか。

僕の隣の家には、祖母が住んでいます。体はとても元気ですが、ぼくが小さい頃からずっと足が悪いです。最近は特に悪くなり、歩くことがゆっくりになったり、立ち上がるのに時間がかかったりします。お墓参りにいっしょに出かけたときなどは、肩を貸したり、ゆっくりといっしょのペースで歩いたりします。

僕が生まれたときからずっと隣に住んでいるので、恥ずかしいということもなく、それが当たり前前の行動です。ごみが重いからいっしょに運んで頼まれたり、高いところに置いてある物を降ろすのを手伝ったりすることもよくあります。少し手伝っただけでも、祖母はお礼を言ってくれます。

僕も学校や家で、物を貸してもらったり、教えてもらったり、手伝ってもらったりするなど毎日たくさん助けてもらって生活しています。でも、当たり前だと思って感謝の気持ちを忘れていたり、伝えていなかったりしていることが多いと思います。

言わなくても分かってくれているだろう、というのは自分の間違いだと思うので、祖母たちのように、感謝の言葉は絶対に伝えていこうと思います。お礼が言っていて欲しいから、人を助けたり、手伝ったりすることは違うと思うので、困っている人や手助けが必要な人に、自然と手が差し伸べられる人になりたいです。

このことをきっかけとして、これからは恥ずかしがらずに行動を起こしていこうと思います。